

えらが探してこいということのできるような状況ではないっていうふうに思っています。

したがって、私も国の政策は国の政策として、どういうふうにしてそれを地元の農業者の方に活用いただくかということ、あるいは国の制度にのっとった補助金とかいろんな制度の資金等をいかに円滑に農業者の皆さんに交付させてもらったり、ご利用いただくかということのお手伝いが基本だと思うんですね。

あとこうしたもののPRなんですけども、PRについても例えば午前中も町田議員のほうからブランド化の話がありました。レインボーのブランド化についてのお話もございましたけれども、ブランド化というのは基本的にはある程度量がまとまらないと、あと特色がないとだめなわけですね。一つの例としては行者菜があります。行者菜については私どものほうからお願いして生産拡大してほしいと。参加農家をふやして量を億の単位の生産額になるようにしたいということで、お手伝いをさせていただいてます。一方で自分たちでPRはいろいろ考えてなさるわけですね。それに対して私どもはお手伝いをするというのがそういう形ではないのかなと。それがあ程度量がまとまったら市としても農業者の皆さんと一緒にPRしていく。特産品として全国に発信するということができるんだと思うんです。特産品をつくるまでの部分もお手伝いしますけれども、PRも基本は生産者の皆さんと一緒にやるものと。農家は余りかわらないで行政がやるものというふうには私は思っていないので、その辺のところもし具体的に何かあれば、漠然としたものじゃなくて、具体的なものがあればご提言いただければ幸いですというふうに思います。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 わかります。市長のおっしゃるのはわかるんですけども、やっぱり市として特産品をつくるのも生産者と一緒にやって

いくのが一番いいのではないかと思いますし、具体的な提案と申し上げても今やっている特色のある長井市の農業を大規模化だけでなく、さまざまな面でご支援賜ればなと思ったところで発言させていただきました。今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○蒲生光男議長 次に、政党代表質問を行います。

赤間泰広議員の質問

○蒲生光男議長 順位4番、議席番号1番、赤間泰広議員。

(1番赤間泰広議員登壇)

○1番 赤間泰広議員 公明党の赤間泰広でございます。皆様、大変お疲れのことと思いますけれども、少しいましばらく時間を頂戴したいと思います。本日、代表質問をさせていただきま

すことに、市民の皆様にご心より感謝申し上げます。さて、東日本大震災から間もなく2年、被災地では復興のつち音が響き始めました。改めまして被災されました方々にお見舞いと、お亡くなりになられた方々に対して衷心よりご冥福を申し上げます。

先日の公明新聞には、いまだ戻らぬ家族や友を待つ人々が東北6県で2,691人もいること、その思いにこたえようと海上保安庁の保安官たちは連日、東北の海で行方不明者の捜索に当たっている様子やその捜索の様子を身じろぎもせず厳寒の海を見守っている家族、友人の様子などリアルにつづられておりました。

そしてそれを所管する太田国交大臣の言葉として、1人として置き去りにしないとの強い決意と被災者の側に立った人間の復興を加速させたいと述べておられました。そしてまた、最前

+

線の海上保安官が毎日、海に潜り、探し続けていることに対し頼もしく思うとし、感謝の言葉がつつられておりました。

平成25年度、内谷市長の施政方針にも、いかにこの長井市をよくし、いかに長井の地を発展させていくかと市政に対する熱いものが感じることができたのは、私1人ではないと思います。

先々月、機会をいただき、学校給食無償化の先進地であります相生市の行政視察をさせていただきました。日本一子育てしやすいまちを目指し、平成23年4月1日、子育て応援都市を宣言され、若い世代を呼び込んで人口減少を防ぎ、まちの活力を高めようと子育て支援や定住促進のための施策を展開しておりました。

子育て支援の中身を拝見しますと、ほとんど長井市とは遜色なく、ただ一つ違うのは給食費の無償化と市長の思いが少し違うのではないかと思います。しかしながら、平成25年度施政方針を拝見すれば、私ごとを捨てて市政に対する熱き思いは同じであると信ずるものであります。この熱き思いを給食費の無償化に力をかしていただきたく切にお願いいたします。

この給食費の無償化は相生市長の谷口芳紀氏の選挙公約でもあり、その施策の実現に対して市民の応援と市議会のご理解を得、また行政職員の何としてもなし遂げるという強い信念が形となり得たものと思います。ぜひ長井市においてもお願いしたいと思います。

次に、胃がん対策とピロリ菌検査についてお尋ねいたします。

毎年、約5万人が死亡している胃がんについて、大きな原因であるヘリコバクター・ピロリ、ピロリ菌の除菌治療に保険適用を求める署名活動を公明党が展開してまいりました。短期間である中で98万2,969人分の署名が集まり、米沢市在住の渡辺孝男参議院議員をはじめ、松あきら副代表、公明党地方議員とともに署名簿とあわせて要望書を昨年5月21日に厚労省に提出。

その結果、先月21日からピロリ菌除菌薬に保険が適用されることになりました。

既に皆さんもご存じのとおり、全国の公明党女性議員が団結して、乳がん、子宮頸がんの検診無料クーポン券を09年に実現し、受診率向上と早期発見につなげていることを改めてご紹介したいと思います。まさに公明党は生命を守る政党であることを声を大にして訴えたいのであります。

さて、話を戻しまして、長井市においても胃がん検診にピロリ菌検査を取り入れていただきたくご提言申し上げるものであります。市長のご所見をお伺いいたします。

次に、小水力発電における長井市のこれからの対応についてお伺いいたします。

今、再生可能エネルギーとして自然の力を利用して電力をつくるのが脚光を浴びております。その中でも特に当長井市では発電後の全国でも類を見ない農業用水を利用しての発電であります。まさに私が感ずるに、天からの贈り物であります。さらに、もう1カ所別の場所にも水力発電所が建設されるとお聞きいたしました。まだまだこれからも農業用水が海に流れ落ちるまで利用が可能となると思われます。そして今後、県内はもとより全国より関係者の視察や観光客が来市されることが予想されております。

小水力発電所が建設される場所は、歴史的に見ても大変貴重な場所であります。興味深い場所でもあります。後ろの山にはかつて絹の道として栄えた新潟県三面川河口までの行程。6,000年ほど前と言われる小豆沢遺跡や狩りに使用されたとする唐沢遺跡の落とし穴群など、道照寺平を登れば長井ダムの堰堤を眼下に見おろすことができ、その眺望はすばらしいものと伺っております。

少し下流に行けばかつて上杉藩の時代、1757年、宝暦7年の洪水に幕府と上杉藩から資金を調達して建設された全長450メートルに及ぶ石

積み堤防、平山の締切堤防遺構。さらにダムの上流に行けば中の沢金山跡、5貫目も砂金がとれたと言われる五貫沢、そこでの砂金とりトレッキングなど、歴史的結びつきとスカイエリア構想など、観光と結びつける場所がたくさんあります。この際、全国に発信していくべきと考えますが、いかがでしょうか。

また、民間企業で計画されておりますメガソーラー発電も興味深い事業と考えます。長井市としてソフト面、ハード面でどのようにバックアップしていかれますか、市長のご所見をお伺いいたします。

次に、公立学校の耐震化及び老朽化対策の推進についてお尋ねいたします。

学校施設は子供の学習、生活の場であるとともに、災害時には地域住民の応急避難所としての役割を果たすため、その安全性の確保は極めて重要であることは、皆様も存じおきのことと思います。

山梨県の中央道笹子トンネル天井板崩落事故後に、にわかに非構造物の耐震化に注目が集まってきたわけですが、今まで当長井市でも学校の耐震化には積極的に取り組んできたわけであり、天井、照明器具、外壁、内壁、そして先ごろ平野小で起きたバスケットリングの落下など、非構造物に対する耐震化や老朽化に対する対応はいかがでしょうか。また、水道・電気・ガスといったインフラについてはいかがでしょうか。あわせて市内にあります体育施設についてもお尋ねいたします。

次に、空き家対策条例の制定についてお尋ねいたします。

空き家対策の先進地であります相生市にて視察してまいりました。当長井市だけでなく、いずれの地でも高齢化が進み、空き家をいかに対処すべきか、問題になっております。昨年度、長井市においても雪の重みに耐え切れず歩道に崩れてきたことを思い出されます。一歩間違え

ば大惨事になったものと思われま

相生市での取り組みとして、市民の住みよい環境を守る条例として空き家の適正管理をするため、解決する直接的な法律を制定しております。特徴として市長の勧告及び命令することができることです。長井市においても今後このような条例を制定していくべきと考えますが、市長のご所見をお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 公明党の赤間議員からは情熱あるご提言をいただきまして、ありがとうございます。議員から五つご提言をいただきましたので、お答えをさせていただきたいというふうに思います。

まず最初、子育て応援都市を全国に発信ということで、相生市のように学校給食を無償化することができないかと。子育て世代の定住化を促進すべきではないかというご提言でございます。赤間議員からは学校給食の無償化について昨年9月と12月の定例議会の一般質問でご提言をいただいております。議員の子育て支援に対する熱い思いにはまず敬意を表したいというふうに思います。

先ほど午前中の不妊治療とか不育治療等々の今までできなかったことを何とか25年度からしたいということで、そういったことも一環でございます。また、後ほどお話ししますが、健康のためのさまざまな検診率を上げることと同時に、市民の皆様の負担を減らす、あるいは検診できる方の対象年齢を広げるといったことも、なかなか今までできなかったことを25年度からしなければいけないということで予算を確保したところでございますが、予算の過程の中で決して、じゃあ、何でもできる財政状況になったかっていうと、まだまだ厳しいものがござい

+

ことは財政調整基金の1億円を繰り替えさせていただくというようなことで予算を組んでるわけではございますが、実際のところ、予算要求から査定段階でもう3億円、4億円の予算要求を削らざるを得ないという状況がまだ実はかなり続いております。それは例えば福祉のほうの予算であったり、あるいは農業などの産業振興、商工振興、観光振興、そういったものであったり、また教育の部分であったり、市民生活に直結するいろんな部分であったり、そういうようなものがまだまだ財源的には余裕がない。そんなことでもう少し財政をより健全化してからということ、25年度も限られた部分しかできなかったという状況がございます。

これまで答弁させていただきましたように、学校給食については現時点での無償化に対する基本的な考え方は、やっぱりちょっとまだ難しいのかなというふうに思っております。ただし、先ほどの梅津議員からもございましたように、農業の例えば安全・安心でいい農産物を生産していただいているわけです。また、午前中の町田議員からもあったように、レインボープランの農産物等々、一生懸命つくっておられる農家の方いらっしゃると思いますので、そういった方々の思いをきちんと受けて、子供たちにそういった栄養価の高い安心・安全な農産物を学校給食として食べていただけるようにできたら、こんないいことはないだろうなということは感じておりますが、ちょっと現時点ではなかなか厳しいということがございます。

学校給食は子育て支援関連施策の一環で重要だと認識しておりますが、子育て支援で優先するのはまずは医療費の無料化だというふうに考えておまして、長井市は現在、小学校6年生まで無料化を行っており、これは県内13市の中では長井市が2番目でしたけれども、やはりほとんどほかの市町村も充実しておりますので、やっぱり長井市以外にもそういったところがど

ンドン出てきております。そんなことでまずは中学生までの無料化を実現したいというふうに思っております。

また、健康関係でいえば、検診の利用料などもやっぱり将来的にはもっと下げる、あるいは無料化ということなども実現したいものだなというふうに思っております。

これまでの答弁の繰り返しになって恐縮ではございますが、学校給食の無償化を実施した場合、新たに毎年1億2,000万円程度の多額の一般財源が必要となります。これは一度やったらもうやめられないわけですから、これは相当、公共事業にすれば20億円、30億円ぐらいに匹敵するような公共事業にも値しますので、やっぱりある程度時期を見てせざるを得ないのかなというふうに、大変申しわけなく思いますが、そのように考えております。

また、小中学校の大規模改修や文化、スポーツ体育施設の整備などを今後10年以内にさまざまなものを用意しておりますし、子育てや教育関連で今後必要と思われる多額の財政需要を考えますと、現時点では学校給食の無償化について明確にお答えできる段階にないということをご理解いただきたいと思います。

今後、給食費の無償化などを含めた多様な子育て応援施策が具現化できるような環境づくりに努めてまいりたいと思います。また、学校給食共同調理場の施設もこの10年以内に新たに建設しなきゃいけないという状況になっております。恐らく10億円前後かかる工事というふうに考えておまして、その辺などもご理解いただければありがたいと思います。

次に、2点目の胃がん対策とピロリ菌検査についてお答えいたします。

最初に、長井市の胃がん検診実施状況でございますけれども、胃がん検診の受診者数は平成22年が2,094人、23年が1,993人、24年が1,934人とやや減少傾向にございまして、受診率向上

対策が必要であるというふうに考えております。

そこで多くの方が受診できるよう来年度の胃がん検診の個人負担金を現在2,300円から1,000円ということで1,300円大幅に引き下げまして、予算を計上させていただいております。こういった検診料金の変更やがん検診受診の必要性について市報やホームページ等で積極的にPRしていきたいと考えています。

また、議員の質問のピロリ菌検診でございませけれども、胃がんの原因はピロリ菌の感染が大きくかかわっているということがわかってる状況でございます。また、年齢が上がるにつれて感染率が高くなりますけれども、除菌することで胃がんの発生率を低くすることができるとされているようでございます。

最近では胃がんの危険要因であるピロリ菌感染と萎縮性胃炎を血液検査で判定できる胃がんリスク検診、これABC検診ということだそうですが、これが早期発見に有効と注目を集めているようでございます。ただ、厚生労働省で推奨している胃がん検診はバリウムによる胃部のエックス線検査でございまして、その他の検査は推奨されていない状況でございます。厚生労働省のがん検診のあり方に関する検討会において、現在、一部の市町村で実施されている胃の内視鏡検査やペプシノゲン法、ピロリ菌検査などの検査方法が住民検査として有効かどうかの検証に入る予定でございまして、長井市においても国や県の動向を見ながら実施を検討してまいりたいと考えております。

次に、3点目の小水力発電における長井市のこれからの対応についてお答えをしたいと思います。

まず最初に、赤間議員から非常に夢あふれるいろいろ提言いただきましたけれども、観光サイドのほうから申し上げますと、視察などで長井市に入ってこられるお客様には、視察もとにいち早い観光情報と地域情報をお伝えし、PR

にまず努めていかなきゃいけない。その辺の連携をしっかりとできるように体制を整えたいと思っております。

また、平成25年度から本格的な観光のポータルサイトを構築、オープンするところです。観光情報のみならず、歴史上の情報まで掲載し、広くPR、全国に向けて発信していきたいというふうに思います。このサイトはフェイスブック等の参加型スタイルを取り入れることやブログ等の投稿で県のポータルサイトと置賜のポータルサイトに自動的に掲載される仕組みをとっております。市内の団体のPRもカバーできる仕組みになるかと思えます。

また、今回メガソーラー発電に取り組みされる民間の事業者からはご相談をいただいております。事業実施に必要な情報等がある場合は提供していきたいなというふうに思っております。民間の収益事業、再生可能エネルギーのメガソーラーは収益事業ではございますけれども、長井市としては再生可能エネルギーの導入を推進する見地から、行政で支援できることがあれば、その都度相談に乗っていきたいというふうに考えているところでございます。

次に、4点目の公立学校施設の耐震化及び老朽化対策等の推進についてということでございます。

当市学校施設の耐震化については、この数年間、集中的に取り組んだ結果、非木造小中学校施設の耐震化率がこの3月末で100%に達しまして、児童生徒、教職員が安全・安心に勉強できる学校生活の場として、また非常災害時における地域住民の避難生活のよりどころとしての機能を確保することができました。

ご質問の非構造物の耐震化については、東日本大震災での屋内運動場等の天井材、また照明器具、窓ガラス、体育機器といった非構造部材の天井落下被害により大きく注目されることになりました。これは議員からもあったようにご

+

指摘のとおりでございます。

現在、文部科学省の学校施設における天井等落下防止対策等の推進策に従いまして、屋内運動場、武道場、講堂など、大規模空間を有する施設等の調査点検等を進めてるところでございますが、国土交通省が示した天井脱落防止対策に係る技術基準原案、これは天井高が6メートル以上かつ天井の面積が200平米以上であるつり天井のある部屋に照らし合わせたところ、新建築基準の適合義務づけが見込まれる市内学校施設は、豊田小学校の多目的ホール天井と長井北中学校体育館のワイヤーメッシュ格子天井となるようでございます。

今後の対応策といたしまして、豊田小学校多目的ホールについては、現在、検討してる市内小中学校大規模改修計画において、豊田小学校校舎の大規模改修を平成26年度に実施したいということで検討しておりますので、老朽化対策とあわせて耐震化、天井落下防止対策を図ってまいりたいと考えております。また、長井北中学校体育館についても速やかに耐震対策を講じたいと考えております。

天井以外の非構造部材の技術基準はまだ示されていない状況でございますけれども、昨年、平野小学校体育館バスケットゴールの破損事故が発生したことから、学校体育館バスケットゴールの経年劣化が顕在化している可能性がございますので、3月補正でお認めいただいた点検作業を早期に行いまして、設置業者の専門技術、ノウハウの提供を受けながら、早急に老朽化落下防止対策を講じてまいりたいと考えてるところでございます。

最後に、5番目の空き家対策条例の制定についてということでございます。

空き家対策については、今年度、平成24年度に山形県と県内市町村、25市町村だったと思いますが、構成する空き家対策検討会が設立されて、検討会の結果として、空き家対策に係

る対応指針が示されたところです。その中で、空き家の課題として所有者等の適正管理がされていないこと、行政による実態把握が進んでいないこと、また空き家対策の条例を制定している市町村が少なく、対策の実効性が低いことや、家屋を撤去し更地にした場合、固定資産税の優遇措置の適用が受けられず、税額がケース・バイ・ケースではございますが、最大では約6倍になるなどの課題が示されたほか、具体的な空き家対策やモデル条例などが示されたところでございます。

長井市といたしましては、さきに空き家の所在地調査、あわせて空き地、廃屋など、所有者などの状況を把握し、老朽危険度の判定や所有者の意向調査を行うため、平成25年度予算において空き家等台帳整備業務委託料を計上してるところでございます。今後、調査の進捗にあわせて空き家対策条例制定の検討を行い、所有者等の責任を明確にするほか、空き家の利活用や解体に対する助成制度などについても検討しながら、そういった条例等の制定についても検討してまいりたいと思っております。

なお、もし仮にこの条例等を制定したとしても、市長が勧告はできますが、命令という権限はございませんので、これはあくまでも民法が上位法でありますので、私ども市町村の条例では命令ということで権限がそこまでは及ばないということがございますので、やはりこれは地域住民の皆様からもご協力をいただきながら、一体となって取り組む対応が必要だというふうに考えてるところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ありがとうございます。本当に市長には3度、私、給食費の無償化ってということでお尋ねさせていただいたんですけども、まだまだ私の勉強不足というんですか、熱意が伝わらないのかなということで、本当にが

っかりしておるところです。ですけれども、市長、施政方針なんかでも述べられておりますけれども、本当にこの長井市を本当に愛しているんだなど、市民のことを思って一生懸命日夜、それこそ寝ないで頑張っておられるというようなお話も聞いております。ここで市長と私で若干の意見の差はあるんですけども、したいっていう方向性は同じだと思うんですけども、それはどうでしょうか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 目標としてはぜひ実現したいというふうに思います。ただし、その施策が許される条件っていうのがいろいろあるかと思ひまして、例えば相生市は長井市とあんまり人口規模は変わらないんですよ。ただし、財政の状況はやっぱり長井市よりはずっといいということと、あと各種の基金が非常にあります。財政調整基金も25億円ぐらいあります。基金全体で85億円ぐらいあるそうですから、そういった昔から財政的にはきちっとしていた自治体なんだというふうに感じたところがございます。

私どもやっとな普通の市町村並みの財政に近づいたということでもありますので、そこに1億2,000万円から1億四、五千万までもしかしたらかかるかもしれませんけども、そういったところが毎年固定費としてぐっとかかわって来るわけですから、そうしますと例えば福祉の部分であったり介護の部分であったり、あるいは市民の健康を守る、先ほどの不妊治療とか子育て支援でもさまざまな部分がありまして、そういったところを総合的に見ながら、やっぱりどこかでしたいと。ぜひその辺は赤間議員からもお力添えをいただいて、全額無料っていうのは最初からできるかですけども、何らかの形で支援することは子供たちにとって私はいいいことだと思うんですよ。保護者というよりも子供たちに長井の特色ある学校給食を、食材を食べさせたいという思いがございますので、まず夢を実現

できるように頑張りたいと思います。引き続きのご指導をお願いしたいと思います。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ありがとうございます。何か少しく光が見えてきたような感じがするわけですし、本当にやっぱり市長も私とすることを一緒だと。だけどもしたくないと、今はできないという意見ですよ。そういう、給食っていうのは私たちの未来を担っていく子供に提供するわけでございます。犬や猫、それこそ家畜にやるようなことではないわけですので、ぜひその重みっていうのを感じていただいて、例えば、じゃあ、いつごろまでにしたいとか、そういう。今はできないけれども、じゃあ、来年ぐらいから半分ぐらいはしたいとか。じゃあ、それがだめならば、じゃあ、どうすんのか、みんなで考えていきたいと思うんですけども、もう1回、熱い決意、内谷市長からお聞きしたいんですが。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。本当に赤間議員は熱意を持って給食の無償化ということに取り組まれてるということに改めて敬意を表したいと思います。児童センターの給食というのはこの1月から保護者の皆様のご理解と、児童センターの職員も協力をすることで実現したわけですけども、そこに100円程度支援してるわけですね。これは学校給食というのは食材の部分については保護者の皆様からご負担いただいているんですね。ただし、調理の部分については市のほうでそれを担ってるわけなんです。今度、食材の部分も市でということについては段階を、ステップを踏んでやっぱり長井市の場合やらざるを得ないだろうと。

ですから、相生市は、これは一つ市では唯一なんですね。812の全国の市の中では相生市だけです、学校給食が無償というのは。だからこそ長井市も2番目をねらったらいいんじゃない

+

かっていうのは、非常に私でも議員もそうですけど、選挙をする者にとっては心引かれるわけですけども、しかし、それがずっと後々に重荷になるような安易な決断もできないだろうということで、バランスを、長井市の場合は15年も市民の皆様いろんな意味での行革に対するご理解、ご協力をいただいたわけですから、そういったところはある程度市民の皆さんも、ああ、ようやく我々も普通の市町村、あるいは普通の市町村よりもいい福祉を受けられるようになったなど。そこから今度は新たに学校給食とかっていう特色を出さざるを得ないのかなというふうに思っています。

したがって、私どもも4年ごとの任期をいただいていますので、いついつっていうことはちょっと今申し上げられるような状況ではございませんが、やはりこれらについて子育て支援としてぜひ市民からのいろんな要望がいただければやりやすいなど。ただし、そういった要望っていうのは今のところそれは無償化になったらうれしいということは皆さん、そうだと思います。あとは大変おいしい安全・安心な長井の農産物を使った給食っていうのは、これは望ましいわけでございますけども、そのところは状況を少し見させていただいてからでないと、具体的なところはちょっと申し上げられないのかなと。非常に残念ですけども、今の段階ではぜひご了承いただきたいと思います。ぜひこれからも赤間議員と一緒に情熱を燃やして、そういったことを実現できるように頑張りたいと思います。以上です。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ありがとうございます。本当に厳しいお話で、本当にこのまま私やめて帰らなければいけないっていうことが本当に心残りではないわけでありませう。

私も企業に勤めておりまして、やっぱり子育て支援、同僚って言わないですね、後輩たちが

何人か知っておるんですけども、やはりこう言っちゃなんですけども、長井市よりも子育てしやすい、私は南陽市にうちを買ってあつちさ住むっていうT君とか、あとS君なんかも南陽市に行っちゃったんですけども、あともう1人はO君っていう人は飯豊町にうちを買っていったと。やっぱり子育て支援、何でやっていうと、そっちのほうがいいからだって、こう言うわけです。何か特色ある施策っていうのをしていかないと、ほとんど山形県内でいえば標準化されたような感じで、特色のある市町村っていうのはほとんどなくなってきたってことです。

それをもっていかないとこれから3万人復活プランなんかもなかなか難しいんじゃないかなと。そうやって若い人たちが定住していただくことによって、長井市の商店とかそういったところも活性化して、そこで生活していくっていうことで経済が起きていくっていうんですか、そういうことになっていくと思うんです。やっぱり特色あるものをつくり出すためにも、この子育て支援の一環として何としても給食費の無償化っていうのを実現していただきたいなというふうに私は考えます。

もう1点なんですけども、給食費っていうのはやはり戦後、私は戦後生まれであんまりわかんないんですけども、食糧難の時代に学校給食をされたとき、日本全国財団法人学校給食会っていうのが設立されたと聞いております。そういったところから食料がないときものを集めるっていうんですか、物量確保っていうことで確かにそういう役目、その当時はあったと思います。今現在、もの的にはかなり豊富になっているわけで、もちろん給食会が担っているのは恐らく今ですと質とか安心・安全っていうところに主眼を置いて頑張っておられるところだと思うんですけども。

これがちょうど一つの例なんですけども、栃木県足利市ですか、学校給食会を通さず地元の

J Aから直接精米を供給してもらうなどの見直しを行ったっていうこと、そういうことも聞いております。そうすることによって給食費を100円だけなんですけども、下げたというようなことがあるわけです。ただ単に給食費の無償化無償化、補助はできません。そうじゃなくて、やっぱり給食を提供する市の側としても何らかの値下げ交渉っていうんですか、買う場所、納入してくださる方を募ったり探したりしていくっていうことも大切なんじゃないかなというふうに考えます。

そういったことを今後いろいろ検討していただいて、何ぼでもよし、先ほど市長が言われたように、児童センターのほうには100円の補助って、週3回でしたっけ、あれは。そうであるならば学校給食にも週3回でも4回でも結構ですから、100円ないし何か補助をしていただけるような方向性はないでしょうか。ちょっとお聞きしたいんですが。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。赤間議員から足利の例を挙げていただいて、学校給食会って、これ文部科学省のほうからの指導でそういったところを通して安定的にきちんとした食材を提供しなさいということだったというふうに思ってますが、長井市のほうでは地元から買わせていただく食材の中で野菜、肉等について、今までは学校給食会というある一定のそこに入ってる業者さんしか参加できませんでしたけれども、民間のいろんな企業のほうから要望がありまして、我々もぜひ参入させていただきたいということから、その都度入札でしております、実態としては値段も下がりましたし、より質のいい食材が入ってるというふうに思っております。

また、レインボーの虹の駅なんかとか、そういったところでレインボープランの認証野菜をぜひ学校給食にということによってそういったことも

頑張っていただけてますし、そういったところでのできるだけの努力は長井市はしてきてると思ってます。

実はこういう話がありました。2月に山形県内の市長会がありまして、その中で医療費の要は無償化をどういうふうにやっていますという市長さん同士での意見交換だったんですけども、やはり大部分が小学校3年生まで。特に大きい市になればなるほど負担が大きくなるものですから、小学校3年生までしか無料化してません。私どもは6年生までしてるグループ、三つか四つぐらいあるわけですね。あと一つだけ中学校、二つか。二つだけ中学校までしてるんですが、そこである市長さんから、いや、我々こんなことで競争したってしょうがないと。こっちの水は甘いぞということでもみんなそっちに行くようなそんな施策はおかしいと。国、県が医療費をちゃんとこうしようっていうことで決めて、無償化だったら無償化と、それに我々も負担していくと、そういうやり方が本来あるべきじゃないかと。私もそのとおりだっというふうに申し上げたんですが、結局学校給食もそういうことなわけですね。

赤間議員がおっしゃったように、確かに私も聞いてます。例えば周りのまちで子育てしてる人、子育て中のご家族がうちに来ればアパート支援を安く入れますよと、こういうことで長井の方も移っておられた方は何組かいらっしゃるというふうに聞いてます。あとうちを建てる時こういうことを支援するからそっちがいいぞ。でもそれはばらまき合戦してもこれはしょうがないと私は思ってるんです。本当は学校給食っていうのは、赤間議員おっしゃるとおり、公明党さんとしてもぜひ力を入れていただきたい部分でして、そこを国全部なんていうのは無理ですから、国でも一定程度推奨して補助しますと。それに県と我々市も補助して半額だとか無償化だとか、そうするべきだと思います。そ

+

れを我々市が無理して、本当はもう少し例えば特老の待機者を減らしたいんだと。そちらのほうにお金をかけたんだけど、それを我慢して子供にかけるっていうのはお年寄りには理解してもらえないかもしれませんが、私は市民全体を考えた場合、それはやはりいろんな立場の人がいらっしやるわけですから、子育ては重要ですけども、やはりそういったところは国できちっと方針を出すべきだと。

ですから、公明党さんは大衆の党でありますから、大衆こそ主役だということでございますので、ぜひ公明党さんのほうから自民党の今の政権のほうに働きかけていただいて、そういった学校給食に対するもっとしっかりとした支援策を講じていただくようにぜひお願いしたいと。私は私ですまず少なくともいろんなことをきちっとやりながら、長井市独自でも特徴ある子育て支援策としてそういったことを一日も早く実現できるように努力してまいりたいと思います。

いや、大変恐縮でございますけれども、そんなことでご理解を賜りたいと思います。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 前回も同じようなことで大変つらいところを突かれてしまって、市長も何か覚えられたみたいなことで。そうなると話が前に進まないんですよ。やっぱりある程度、市長も長井市の都市再生整備計画っていう公約にうたわれたところを掲げて市長の公約としてなられたわけありますから、そうやってしまえば国が皆悪いのだからっていうことになってしまうわけで、そうじゃなくて、思っているのは伝えるだけでなく、実行しないとだめだと思うんですよ。

ここで時間もあんまりないんで、何だかんだ言っても結局また公明党が国会で何かしろとかって言われてしまうのかなと思ってちょっと残念なんですけども、そういう言葉を聞くっていうのは、だけでも子育て支援っていうのは、み

んなが長井市に住む全員がかかわっていかなきゃいけないわけなんで、私なんか3人兄弟で一つのまんじゅうを三つに分けて食べたものですから、やっぱりそういったことを考えればよし、多少なりとも補助なんかしていただければなどというふうに考えたところなんですけども。

これは今後、私、勉強ももっとさせていただいて、また予算総括とか次回の一般質問とかでさせていただくようにしないといけないのかなというふうに考えてます。

それでは、いつまでもこの件についてお話しするわけにも私まいりませんので、胃がん対策とピロリ菌検査について。

さっき市長が大変すばらしいことを言っていたいたわけですね。全国ではもうこうなんだというようなことで、ちょうど同じようなことが血液検査でリスク判定ができるというようなこと。実際これ静岡県藤枝市でことしの4月からですか、エックス線検査、バリウム検査を廃止して血液検査によるピロリ菌の有無と胃の粘膜の萎縮度を調べるというようなことをするようになったそうです。そうするとやっぱりどうしてもバリウムを飲んでしまうと胃腸の弱い方とか高齢者の方の負担が物すごく大きいんだそうですね。そういったことを考えれば、ピロリ菌の検査もしくはこういうふうなやり方で今後、長井市としてもやっていかれたらどうでしょうかというふうに考えます。

先ほど申し上げましたとおり、約5万人ぐらいの方が全国で胃がんだけです、胃がんだけで5万人ぐらい亡くなってるということなんですよね。もちろんピロリ菌だけが全部原因じゃないんですけども、恐らく9割方、9割以上かな、そういう原因菌によって胃がんできなくなってるということが事実あるわけなんで、その辺のことも今後、市長、もう一度長井市でどのようにやっていかれるかっていうのの決意を込めて明るい希望のほうで返答をお願いしたいと

思います。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 25年度についてはちょっともう当初予算は組んでございますので、これは難しいと思います。先ほど答弁いたしましたように、厚生労働省のほうでもこういう新しい検査方法が大勢の市民の皆さんの検診なんかで有効かどうか検証に入る予定だということでございますので、できればその時点で一緒にしたいというふうに思っています。ただし、赤間議員からあったように、そういう検診方法があるんですけども、それらについてこれは極めて有効だというふうに例えば私どもの健康のほうの統括監っていますので、これは先生、長井病院の前院長先生ですけども、そういった方々からこれ大丈夫だよというような、そういったことでのきちっとした確証があればそういったことに変えることも、国は時間がかかるとしたら、おっしゃるように大変バリウムのエックス線検査っていうのは負担が大きいですから、そういったことも検討できるというふうに思っております。以上です。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ぜひ本当に命がかかっているってということで、前向きに検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、小水力発電と観光を結びつけて、私が提言したのはそういったことを全国に配信していったらどうかということなんですけども、本当に私も余り歴史のことはわからなかったわけなんですけども、詳しい方にお聞きすると本当に元長井ダムの発電所、昔の発電所あったあたりはすばらしい歴史的な遺跡がたくさんあるところなんだというようなことをお聞きしたわけです。本当に夢のあることだななんていうふうに思っております。

カリフォルニアのゴールドラッシュなんかも本当にたった1人の人が発見したことによって

何百万人もの人がもう全世界から押し寄せたっていう、そこまではいかないとしても、何か夢的には中の沢金山とか五貫沢とかっていうところがあるということなんで、そういったところもぜひ観光パンフレットとか、そういったところに入れていただければ集客、長井に来られる人をもっともっとふやすことができると思うんですけども、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。もう一度その件についてよろしくお願ひします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 赤間議員おっしゃるように、非常におもしろい観光資源となるものがたくさんあるわけでございますので、やはりこれ仕掛けの仕方だと思うんですね。ただ発信するだけではなかなか難しいので、いかにそういった貴重な資産をつなげて、どういうふうにして人に来ていただくように仕掛け、なおかついらしていただいてもお金を落としてもらわないと観光としての価値がないわけですから、そういったところなどもやはりいろんな関係する団体や地域の皆さんから意見をいただいて、仕掛けをつくっていかなくちゃいけないと思っています。ありがとうございます。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ぜひソフト面、ハード面でいろいろとご支援なんかいただければ、長井市の活性化にプラスになると思います。

本当に時間がなくなってまいりましたので、ぜひ一つやっぱり学校、本当に長井市は市長のご理解が大変よかったっていうことで本当に安全対策、耐震化っていうのはほとんど終わったということで本当に頼もしく思っておるところです。

ただ、非構造物に対してまだまだもう少ししっかりと検証していかなければならないと思いますので、ぜひ今後とも安心・安全な学校教育、もちろん学校教育だけじゃないわけで、そこで

+

市民なんかも避難所として何かあれば使うわけですので、ぜひしっかりと対応していただきたいと思います。最後に、その件について何かよろしく、コメントをお願いします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。学校についてはそういったいわゆる天井みみたいな危険なものがないかということをおかげさまで予算は補正でお認めいただきましたので、早速再度点検しながら、子供たちにとって安全・安心な学びの場であるよう今後とも整備等々について努力してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

○蒲生光男議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

まず、第1は特別養護老人ホームの入所待機者についてであります。

私は、12月議会で市長の9月議会での私の福祉施設増設を求めた質問への答弁が、市内特別養護老人ホームや老人保健施設には待機者が実質的にいない状況が出ていると、いかにも市内の特別養護老人ホームと老人保健施設には入所待機者がいないとしかとれない事実と反する答弁であったため、私は実態を調べた上、現に入所希望者が260人もいる事実を上げ、次の三つの理由から市長答弁を訂正するよう求めました。

1、事実と反する答弁を認めることは厳粛な議会の権威を失墜させることになる。2、現に入所を待ち望んでいる方々をないがしろにすることになる。3、こうした認識からは待機者の願いにこたえ、施設をつくる真剣な努力が出てこない。これに対し市長は、調査したところ、市民の待機者は現在167名で、実質待機者は120名ぐらいになると明らかにしました。それなのに市長は9月議会の答弁は待機者がいませんとは言っておりません。入所する人がいない事実もあって待機者がいないと推定されると述べたものであり、陳謝や削除は考えていないと答えました。

しかし、私が調べてみると、あきが出たので入ってくださいといっても入る人がいない、待機者がいないと市長が答弁した根拠は、その時点の寿泉荘の場合を上げたもので、260名も入所を待っている慈光園は視野に入っていません。しかも慈光園だけではなく、ほとんどの特別養護老人ホームが入所待機者を抱えており、入所希望が定員ぎりぎりという施設は県内でも最も早く開設し、建物も古い寿泉荘だけといってよく、例外的と言えます。したがって、寿泉荘の例を挙げ、待機者がいない例とすること自体不適切です。

しかも市長答弁は市内の特別養護老人ホームと老人ホーム全体に待機者がいないかのような

+

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

+

○蒲生光男議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

今泉春江議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位5番、議席番号4番、今泉春江議員。

(4番今泉春江議員登壇)

○4番 今泉春江議員 今泉春江でございます。

日本共産党を代表し、内谷市長に3点について質問します。